

消防団春季合同検閲

地域の安全・安心のために 決意を新たに

4月24日、3年ぶりに春季合同検閲が城山総合グラウンドで開催されました。(写真1、2、5、8)
新型コロナウイルス感染症を考慮して、規模縮小・時間短縮での開催となり、通常点検、機関点検などのほか、4年無火災を達成した安達地区隊第4分団らが表彰を受けました。
消防団員は、決意を新たに地域の安全・安心のために活動していきます。

また、去る4月10日には、消防団初任団員教育訓練が岩代運動場で行われ、91人の団員が、有事に備えて、放水用ホースの取り扱いなどを学びました。(写真3・4)



1



2



3



4



7



5



8



6

Voice!



二本松市消防団 団長
わたなべ もりお
渡邊 守夫 さん

コロナ禍だからといって災害は待ってくれない

新型コロナウイルス感染症が広がって、集団での活動ができなくなり、歯がゆい部分がありました。しかし、コロナ禍だからと災害は待ってくれません。

我々消防団は、たとえコロナ禍であったとしても、防災活動は継続しなければなりません。一昨年来、会議等を少人数で行ったり、LINEアプリを活用しての連絡や情報共有を行ったりしました。各自が感染対策を徹底しながら、コロナと共存してやっていくしかないと思っています。

また、深刻な後継者不足を受け、団員の定数やあり方の見直しを行い、「機能別消防団員」が導入されました。今年度から「機能別消防団員」となった128人は、消防団OB等の経験者で構成され、検閲などの式典には参加しませんが、有事の際には地域の安全を守る活動を行います。